



特定非営利活動法人 女性技術士の会

ニュースレターvol.19



暖かい日差しが嬉しい季節となりました。また、花粉症や黄砂、PM2.5などに悩まされる季節でもあります。草木は健気に新芽を膨らませています。私たちも、草木に負けない気合いと忍耐を身につけたいものですね。

本ニュースレターは、特定非営利活動法人女性技術士の会会員のみなさまへ、本法人の活動内容を中心にお知らせいたします。第19号では、2014年1月～3月の活動報告、リレーエッセイ、運営報告、今後の活動予定などをお届けします。今回も楽しい記事が満載ですので、どうぞお楽しみください。なお、ニュースレターではみなさまからの投稿記事を募集しますので、仕事のこと、趣味のことなど、お気軽に投稿してください。詳細は巻末のアドレスまでお問い合わせください。

CONTENTS		
活動報告		2 ページ
■ 2014/01/25	平成 25 年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス (WPETF 活動への協力)	2 ページ
■ 2014/02/08	2014 年 新年会 (大雪により中止)	2 ページ
■ 2014/03/15	第 21 回技術サロン (WPETF 活動への協力)	2 ページ
東日本大震災復興支援事業ご協力のお願い		3 ページ
会員からの発信		3 ページ
■ 古屋温美さん	「漁村地域とともに」	3 ページ
リレーエッセイ		5 ページ
■ 鈴木広子さん	「新しい緑地空間を求めて」	5 ページ
運営報告		6 ページ
今後の活動予定		6 ページ
■ 2014/05/17	第 7 回通常総会	6 ページ
■ 2014/06/21	第 22 回技術サロン (WPETF 活動への協力)	6 ページ
■ 2014/08/08	女子中高生夏の学校 2014～科学・技術者のたまごたちへ～	6 ページ
■ 2014/10/04	第 12 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム	7 ページ
■ 2014/10/19	第 8 回日韓女性技術士交流会	7 ページ
■ 2014/10/23～25	ICWES16 (第 16 回国際女性技術者・科学者会議)	7 ページ
技術士を目指して		8 ページ
■ 長野久美さん	「私の転機」	8 ページ

活動報告（2014/01～2014/03）

- 平成 25 年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス（WPETF 活動への協力）
- ◆ 日 時：2014 年 1 月 25 日（土）13:00～17:20 （ポスター展示 11:00～15:00）
- ◆ 場 所：コクヨホール
- ◆ 活動形態：協力
- ◆ 主 催：（公社）日本技術士会
- ◆ 参加者：石田、千木良、岩熊 ※アンダーライン付記は本法人会員
- ◆ 内 容：平成 25 年度技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了見込者を対象としたガイダンス。技術士の部門紹介（部会ポスター）、登録グループ、大学技術士会等のポスター展示において、男女共同参画推進委員会の展示では、本法人が協力して開催している技術サロンを紹介された。参加者には本法人の紹介も行った。

■ 2014 年 新年会（大雪により中止）

2 月 8 日（土）に開催予定であった小石川後楽園での「梅まつり」見学会並びに涵徳亭での新年会は、記録的な大雪となり、残念ながら中止となった。年度末でもあり日を変えての新年会開催は難しいと判断し、5 月 17 日開催予定の第 7 回通常総会後の懇親会に統合することとした。

■ 第 21 回技術サロン（WPETF¹活動への協力）

- ◆ 日 時：2014 年 3 月 15 日（土）13:30～16:00
- ◆ 場 所：（公社）日本技術士会 葺手第 2 ビル
- ◆ 活動形態：協力
- ◆ 主 催：（公社）日本技術士会 男女共同参画推進委員会
- ◆ 参加者：主催者；石田、岩熊、角田、笹尾、佐野、平塚
ゲスト；神下栄氏（修習技術者支援実行委員会委員長）
一般参加者；7 名（女子学生 1 名、社会人 6 名） ※アンダーライン付記は本法人会員
- ◆ 経 緯：WPETF の主な活動目的の一つである女性技術者のキャリア形成支援事業の一環として、JABEE 課程と技術士制度の説明及び先輩女性技術士との懇談を企画したもの。
- ◆ 目 的：技術者を目指す女子学生が、技術者としての自分の姿を思い描き、学校での勉学をもとに、充実したキャリアを積んでいけるよう、女性技術士と意見交換をする場を提供すること。
- ◆ 概 要：技術士取得へのモチベーションの高い参加者が多く、資格の活用法、海外の資格との互換性、男性ばかりの職場での働き方等の具体的な質問について、活発な意見交換が行われた。



¹ WPETF：Women Professional Engineers Task Force、（公社）日本技術士会登録グループ

東日本大震災復興支援事業ご協力のお願い

2011年3月11日14時46分、皆さんはどこにいらっしゃったでしょうか？

東日本大震災から3年。復興はまだまだ先が長い状況にあります。ご本人やご家族あるいはご親戚・ご友人がこの大震災に直面された方、業務やボランティア活動を通して復興事業に関わられている方、本法人でも多数いらっしゃると思います。

各所で多くの支援がなされる中、本法人は法人の特徴を生かした支援活動ができないかとの思いで、ウェブサイトいち早く以下のメッセージを掲載しました。

私たちは、東日本大震災地域にお住まいの小中学生・高校生のみなさん、理工系の大学・高専に学び、将来技術者を目指している女子学生さんを応援します。現在、東北地方在学の理工系女子学生さんに技術サロン出席支援を行っています。

技術サロン出席支援は、賛助会員の方の寄付金を得て実現し、第10回技術サロン(2011年6月)へ福島工業高等専門学校に学ぶ2名の学生さんに出席いただきました。現在までに15名の学生さんを招待しています。参加記「技術サロンに参加して」は、ニュースレターにて紹介していますので、お読みいただいていると思いますが、学生の皆さんの前向きな様子が記事から滲み出ており、嬉しく、頼もしく感じています。

本法人では、2012年の総会で会員の皆様の賛同により、「震災復興支援事業に関する基本方針」を「**科学者・技術者として被災地域の復興や将来の我国の科学技術発展の原動力となる小中学生・高校生や理工系女子学生の育成を目的とし、息の長い支援を行う。**」と定め、学会参加費の補助、技術サロンへの出席支援、被災地域への出前講座その他適切な事業を支援事業といたしました。財源は会費の一部及び寄付金等です。

本法人ウェブサイトの左下「震災復興支援基金のご案内」をごらんいただき、支援活動へのご理解、ご協力をいただければ幸いです。

また、技術サロンに参加いただける宮城・福島等の理工系女子学生さんのご紹介や、本法人の活動に関するご提案がありましたら、ぜひお知らせいただきたく、併せてお願いいたします。

(文責 事務局)

会員からの発信

■ 古屋温美さん(建設部門・水産部門) 「漁村地域とともに」

現在の職場は室蘭工業大学地域共同研究開発センターといいまして、主に大学の研究シーズと現場のニーズのマッチングや競争的資金の獲得、大学における地域志向の取り組みを推進する立場で仕事をしています。今回は、大学の仕事とは直接関係はありませんが、自分自身の水産系のライフワークと位置づけている活動について紹介させていただきたいと思います。それは私が理事長を勤めるNPO法人マリネットワークです。

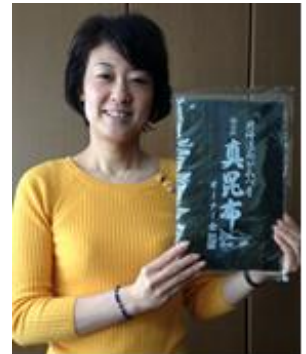
NPO法人マリネットワークは、漁村地域とその他の地域との交流・連携をコーディネートすることなどにより、持続可能な漁村地域の形成を支援する専門機関として平成24年7月に設立され

ました。現在、個人会員 130 名、法人会員 31 社によって会の活動が支えられています。

活動内容は、①漁村地域とそれ以外との交流促進事業、②漁村地域の担い手支援に係る事業（漁村勉強会の実施）③漁村とともに行う調査研究 が主なものです。設立して 1 年 8 ヶ月ですが、その活動の一部をご紹介します。

①漁村地域とそれ以外との交流促進事業

北海道函館市の南かやべ漁協大船地区青年部が始めた養殖コンブオーナー制は、昆布約 40 本を 1 年かけて育成し製品化してお届けするものです。オーナー 1 口（代金 28,350 円（消費税および送料などその他の費用含む））は、早煮コンブ 2 kg、ダシコンブ 6kg が発送されますが、1 口 8kg のコンブは 1 家庭で消費するには十分すぎる量なので、気軽にオーナー制コンブを試していただきたいと思い、小分けオーナーとして販売させていただきました。早煮コンブ 1 袋（150g）、ダシコンブ 1 袋（200g）を各 1,000 円（消費税および送料込）で販売しました。



②漁村地域の担い手支援に係る事業

マリナレッジサークル（漁村勉強会）は、漁業者、研究者、民間企業、行政等の多様な人たちが集まり、地域の課題や様々な対策等についての意見交換を目的としています。これまで 5 回開催し、話題提供と意見交換が中心ですが、勉強会がきっかけとなり地域の動きが加速化された事例もあり、そういう場合は地域で可能な限り一緒に活動しています。下記は学生と一緒に参加した苫小牧港漁港区刺し網漁業体験と意見交換会です。日頃まず見ることのない漁業の作業環境、重労働を体験するとともに、漁業協同組合の方から漁業の現状をお聞きし、問題点などをディスカッションするものです。将来、公共政策に携わる学生に好評でした。



魚の網はずしをする学生



漁協との懇談会



漁協女性部手作りの朝食

③漁村とともに行う調査研究

第 8 回産総研北海道センター講演会「北海道水産物の鮮度保持とブランド化」（（独）産業技術総合研究所北海道センター主催 平成 26 年 3 月 12 日 札幌グランドホテル）を共催させていただき、講演会の全体構成とフォーラムディスカッションの進行を専門家として担当しました。参加者もフォーラムのパネリストも異業種の方が多く、人のつながりの重要性を再認識しました。



フォーラムディスカッション



蓄養ホッケ刺し（試食）



鮮度保持されたホッケの展示

リレーエッセイ

■ 鈴木広子さん（建設部門） 「新しい緑地空間を求めて」

都市緑化の調査・研究をする東京の財団に勤めて約9年、その後の1年のアルバイト生活を経て、本年4月から沖縄の北部で勤務することになった。新しい仕事も公園や地域の緑に関する仕事だ。就職活動をして改めて考えた。「これから求められるみどりって何だろう？どんな緑地空間が創られていくのだろうか？」

私がランドスケープや造園という職種を知り、その職業を目指したのは高校1年生の時だ。キャンパス見学会で造園空間の美しい写真のスライドを見て感動した。文学や音楽、絵にはそれぞれ好みがあるけれど、植物が織りなす美しい風景は老若男女問わず多くの方が好ましいと思う。和歌や小説に描かれた風景描写からも、登場人物の気持ちを共有することができる。皆の人生の背景となる風景を創る、このお仕事に携わりたいと心に決めた。

それから約10年、自分なりに頑張ってきたが恥ずかしながら専門性を身に付けるに至っていない。それでも街のみどりや公園のこれからを考えることは、やっぱり楽しくてやめられない。

昨年末に旅行したシンガポールで2012年6月に開園した「ガーデンズバイザベイ」を見た。シンガポール政府の公共政策として、新都心のマリーナベイエリア101haをウォーターフロントガーデンにするという壮大な計画のもと、約5年をかけて造られた。日本でいえば東京のお台場が巨大な植物園になったというイメージだ。有名なマリーナベイサンズホテルやシンガポールフライヤーを背景に、35mもの人工滝がある2つの巨大なガラスドームやスーパーツリーといわれる緑化された人工タワーを、シンガポールの主要な民族をテーマにした10の庭園が取込んでいる。宮崎駿アニメの近未来都市を彷彿とさせる景観だった（写真参照）。

この植物園は「City in the garden（庭園にある都市国家）」構想にもとづくシンガポール都市構想のパラダイムシフトの具現化のひとつだ。自然環境と共存し持続性のある都市の営みを目指すことで、そこに暮らす人々の生活も豊かにするという使命を担っている。

そのような構想やイメージは私たち日本の自治体の計画でも描かれるが、実現は難しい。多様な人種が住むコスモポリス・シンガポールでは都市の顔として、また、新たな時代の豊かな暮らしの基盤としてみどり溢れる新都心が選ばれた。その実現を目の当たりにし、感動した。

私たち日本人は、これからみどりや公園に対して何を望み、どんな緑地空間を求めるのだろう、それをこれからも考え続けたいし、その実現のために働き、出来上がった景色を見ていきたい。



マリーナベイサンズホテルを背景に



空中回廊やレストランも設置されている
スーパーツリー



ガラスドーム内の
35mの人工の滝

運営報告

主体	日時	議題
理事会	2月21日(金) 19:00~21:00	総会資料の確認、各部会活動報告及び部会固有活動の確認、平成26年度活動計画、次期体制に関して等
	4月12日(土) 10:00~12:00	総会資料及び当日運営の確認、各部会今年度活動方針の確認、男女共同参画学協会連絡会参画に関して等
企画部会	—	おもしろいまちづくりシンポジウム第6弾 報告&まとめ
広報部会	4月17日(木) 19:00~21:00	理事会協議内容の伝達、ニュースレター(vol.19、vol.20)、女子中高生夏の学校2014について、他
総務部会	—	会メーリングリストの移行作業 会計および入退会、メールアドレス等変更に関する事務 各種印刷物の印刷および発送の手配
国際部会	—	INWES-J 運営委員会への参加、ICWES16に関する情報収集

今後の活動予定

■ 第7回通常総会

- ◆ 日 時：5月17日(土) 14:00~16:30
- ◆ 場 所：大田区産業プラザ Plo
- ◆ 内 容：総会および講演(終了後、懇親会予定)
- ◆ 講 演「ICWESの紹介」ICWES16に向けて、これまでの報告および今回の案内
「私達の老後はどうなるの? 一年金の専門家に聞いてみよう」

■ 第22回技術サロン(WPETF活動への協力)

- ◆ 日 時：2014年6月21日(土) 13:30~16:00
- ◆ 場 所：(公社)日本技術士会 荻手第2ビル
- ◆ 対 象：技術者及び技術士を目指す女子学生・女性
- ◆ 概 要：「技術士」資格に関する説明、意見交換会
- ◆ 定 員：15名
- ◆ 参加費：無料
- ◆ 申込先：廣瀬由紀 wpetf@pej-lady.org

■ 女子中高生夏の学校2014 ~科学・技術者のたまごたちへ~

- ◆ 日 時：8月8日(金) 13:00~
- ◆ 場 所：(独)国立女性教育会館(埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地)
- ◆ 対 象：理系を目指す女子中高生
- ◆ 内 容：本企画は、(独)国立女性教育会館(NWEC)が、(独)科学技術振興機構(JST)の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の委託を受けて毎年実施しているもので、本法人はブースを設け、ポスター展示、理系の職域紹介及びキャリア相談等を行っている。
- ◆ 詳 細：<http://www.nwec.jp/jp/news/2014/page01.html>

第 12 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

◆ 日 時：10 月 4 日（土）9 時半～5 時半

◆ 場 所：東京大学大学院数理化学研究科（駒場キャンパス）

◆ 概 要：シンポジウムは年次大会として例年実施されている。詳細は未定ではあるが、初めて技術者に焦点を当てた分科会が企画された。（公社）日本技術士会が分科会担当となったため本法人も開催に協力するとともに、参加を呼び掛ける。

第 8 回日韓女性技術士交流会

◆ 日 時：2014 年 10 月 19 日（日）予定 時刻未定

◆ 場 所：松山市

◆ 主 催：特定非営利活動法人女性技術士の会

◆ 経 緯：7 年前より（公社）日本技術士会 日韓技術士国際会議のプレ・イベントとして女性技術士シンポジウムを開催

◆ 目 的：日韓両国の女性技術士の情報交換・スキル向上・親睦

◆ 概 要：懇親会などを予定



2007 第 1 回日韓女性技術士交流会 in Seoul

ICWES16²（第 16 回国際女性技術者・科学者会議）

◆ 日 時：2014 年 10 月 23 日（木）～25 日（土）

◆ 場 所：米国ロサンゼルス

◆ 主 催：INWES³、SWE⁴

◆ 内 容：今回はアメリカ最大の女性技術者組織である SWE と共催で行われる。これまでのような INWES 会員だけの交流ではなく、国際的に活躍している 6000 人規模の女性技術者が参加する見込みである。

本法人からは、前回の ICWES15 で開催したワークショップーWomen Professional Engineers at Workーサブタイトル：「よその国の労働事情はどうなっているか聞いてみましょう」第 2 弾の申請を行っていたが、総数 200（50 カ国）の中から採択された。また、ポスターセッションでの個人としての発表も採択された。発表はせずに参加だけでも意義がある楽しいイベントなので、会員のみなさま、ぜひ参加してください。



² ICWES16 : The 16th International Conference of Women Engineers and Scientists

³ INWES : The International Network of Women Engineers and scientists

⁴ SWE : Society of Women Engineers

技術士を目指して

■ 長野久美さん（化学部門） 「私の転職」

初めまして、長野久美と申します。この度は、貴重な本稿執筆の機会をいただき、ありがとうございます。ここでは私の自己紹介に加え、今この立場にたった経緯と今後をお伝えさせていただきます。

私は大学時に物質・環境工学科にてセラミックス工学を専攻し、半導体材料の作製時のエネルギー軽減を研究テーマとしました。卒業研究も無事に終え、大学院への進学を考えていましたが、当時の家庭事情等もあり就職を選択しました。就職先は研究分野とは異なる食品メーカーの営業。生活に一番身近で興味があった食品分野で開発営業として関西で6年働き、7年目の時東京へ異動となりました。これが技術士を目指すことにした転職の訪れです。なぜ異動が転職なの？と思われる方も多いかと思えます。しかし、私にとって7年目そして東京という2つのキーワードが技術士を目指すきっかけとなりました。



東京へ異動し、大学時代の友人・知人と会う機会が増えました。友人たちは大学で学んだことを生かし様々な分野で開発・製造に携わり、ゼロからものを作る。失敗を繰り返しながらもより良い発見をする。彼らの目はすごく輝いていて、その輪の中に入れない自分に疎外感を味わいました。また、卒業時に修習技術者となった私たちが技術士の第二次試験を受けることができる7年という月日。当然のように仕事の話の中で技術士の話題がでてきます。仕事は順調だし、私は私だから！と思っていたのに、やはり羨ましく思ってしまったのです。

このようにくすぶっていた私に大学の先輩から技術サロン参加へのお誘いをいただきました。卒業してもうすぐ7年、しかも卒業後は経験なしという状況で自分にもう一度目指せるのだろうかという戸惑いが大きかったのですが、技術士のことを良く理解できていないまま諦めるのはどうだろうか…という気持ちで参加させていただきました。今思えば、このような状況で技術サロンに参加できたのも東京にいたからだと思えます。

技術サロンに参加させていただき、技術士の方とお話することで今までぼんやりとしていたものが少しははっきりとしてきました。これは経験等で更に明確なものが見えてくると思えます。曖昧な気持ちのまま相談をさせていただきましたが、親身になって回答していただき、目指す方向性を見出すことができました。感謝しております。

第二次試験受験部門に関してはまだ決めきれない部分がありますが、最終的には技術士として、唯一無二のものを生み出し、そしスペシャリストとなることを目指します。今後ともご指導の程宜しく願いいたします。

ニュースレターについてのご意見・ご感想はこちらまで：info@pej-lady.org

2014年第2号 通巻第19号 発行責任者：特定非営利活動法人 女性技術士の会 理事長 木村了